

うしく里山の会 広報誌

さとやま

No. 85 2010年3月号



NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail u_satoyama@infoseek.jp

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>



野生生物の魅力と つながりを伝えて

自然観察出前講座 石神 良三

身近な公園での観察会

平成21年度「自然観察出前講座」活動状況 22年1月17日現在

月	日	対象	内容	場所	参加者			計
					幼児	小中生	大人	
4	28	小学生	ヘイケボタル保全講話	向台小		130	5	135
"	30	一般	早春の野草観察	田宮地区			16	16
5	11	小学生	ヘイケボタル保全田植	牛久地区		130	6	136
"	15	一般	身近な自然観察	田宮地区			35	35
"	28	幼稚園児	身近な自然観察	結束地区	98		7	105
"	29	幼稚園児	水辺の生き物観察	岡見地区	28		3	31
6	5	一般	団地緑面林の観察	田宮地区			38	38
"	8	学校(教師)	源氏ボタルの保全	新治小			3	3
"	13	一般	身近な自然観察	城中地区			14	14
"	17	幼稚園児	水辺の生き物観察	牛久地区	56		62	118
7	10	小学生・保護者	ヘイケボタル保全(観察会)	牛久地区		76	110	186
"	11	"	"	"		62	70	132
"	14	一般	ヘイケボタル観賞	牛久地区			36	36
"	24	保育園児	ヘイケボタル観賞	遠山地区	25		60	85
"	29	一般	ヘイケボタル観賞	牛久地区	15		15	30
8	2	子供会	早朝の自然観察	田宮地区		32	5	37
9	25	一般	里山の自然観察	結束地区			42	42
10	13	小学生	ボタル保全稲刈り	牛久地区		130	6	136
"	15	保育園児	秋の自然観察	牛久地区	32		3	35
"	29	幼稚園児	秋の自然観察	牛久地区	38		2	40
11	6	保育園児	秋の自然観察	田宮地区	18		3	21
"	21	一般	牛久城址見学	城中地区			16	16
合計					310	560	557	1427

「自然観察出前講座」が誕生して五年目となる本年度の活動もほぼ終了。別表の通り二十二回の要請をいただし、延べ六十三名の会員の方々のご尽力により実施することができました。

要請団体やグループも、幼稚園、保育園、小学校、一般と多岐にわたり、老若男女の市民の皆さんと活動できたことは嬉しい限りです。

本年度の特徴としては、幼稚園、保育園からの要請と参加数の増加をあげることができました。幼児期に身近にある本物の自然にふれながら、生物どうしのつながりに気付いていく体験は、他者意識を育むうえでもとても貴重なものであり、私たちにとっても貴重な体験となりました。



うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。

先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！

プロジェクト活動報告



雑木林応援隊

原口 隆男

炭焼き公開講座

新しい年の松の内が過ぎた一月十日、近年この時期に恒例となつて一般公募による炭焼き公開講座が行われた。『炭づくりを一緒にしませんか？』との呼びかけに募集人数を大幅に上回る一般参加者二十五名、雑木林応援隊十五名と参加者は総勢四十名で体験講座で人気のある竹炭焼きに挑戦した。

参加者には会員が日頃培つた炭焼きのノウハウを熱心に指導し、合間には身近にある草花、木の実、小枝等で作るお花炭も体験し、炭焼きを楽しんだ。悪戦苦闘の末、午後にはそれぞれ立派な竹炭が出来上がり、参加者は大いに炭焼きの醍醐味を味わいました。

お昼には訪れた来園者（十名程）も加わり暖かいみそ汁を囲んで炭焼きの体験話で盛り上がり、大盛況のうちに終了した。当日の参加者からの感想文が寄せられましたので次に掲載致します。

生まれて初めて炭焼きを体験しました。役員の方の助けを借りて二、三人のグループに分かれて窯のための穴掘り、窯（オイル缶）に竹を詰め込みそして炭焼き開始です。火加減と焼き時間については隣りの窯と比べたりでワイワイガヤガヤで一、二時間を楽しみました。そして火止め、この決断が難しい。冷やす間に皆で昼食を。暖かいけんちん汁や珍しいフキノトウの味噌和えや紫イモ団子もご馳走して頂きました。

そしていよいよ炭の掘り出しです。最初のグループの窯の掘り出しは皆の見守る中でオープンです。少し焼き過ぎかな？それでも立派な炭の出来上がりです、拍手。そして自分たちの窯を掘り出し立派（自画自賛）な炭の出来上がりに感激（拍手）。会場の準備始め、いろいろとご指導頂いた役員の方々の御礼申し上げます。また機会があれば参加

させて頂きます。（牛久市Hさん男性）

過日は大変お世話になり、ありがとございました。当日は、青空の下、風も無く楽しい一日を過ごさせていただきました。竹炭作りは以前から興味があり、本からの知識は持っていたのですが実体験はしていませんでした。体験してみますと、知識だけでは得られない多くのことが分かりました。また、竹のことや燃やし方に関する豊富な知恵をいただき、大変参考になりました。わたしの家はモウソウ竹林の中にありますので、材料を集めて炭焼きをやるうと思つています。里山の会の皆さんが作ってくれた豚汁等、とてもおいしかったこと感謝します。

（龍ヶ崎市 Oさん男性）

晴天の下、初めて竹炭作りを体験させていただきました。焼き場となる穴掘りから始まり、オイル缶に竹を詰めいよいよ火入れをしました。白い煙から幽霊のような青白い煙になるらしいのですが、うちの缶は青白くなりませんでした。『きつと生焼けだ』と思いがら昼食。その後あけてびっくり。ちゃんと竹炭になっていました。感動！何が成功の鍵だったのでしょうか？



参加者それぞれの想いで炭を焼きます 10.1.10

う？お昼には三種のお鍋をご馳走になり花炭というお土産までいただきました。スタッフの皆さんお世話になりました。とっっても楽しい一日でした。（Kさん女性）



里山自然観察隊

平塚 芳雄

小野川流域の植物相調査を終えて

里山自然観察隊は平成十九年四月から三年間市内小野川流域（雑木林と水田）で植物相調査を行ってきました。これはここ数十年、牛久市内でも都市化が進み自然環境が大きく変化、植物や昆虫の生存に大きな影響を与えていることが予想され、市内の山林や湿地に生育する植物の状況を自分達の目で見て調べ記録し、現状を考える基礎資料を作成することが必要と考えたからです。調査は渡辺泰さんの指導の下、牛久市の地形、自然環境を特徴づけている小野川流域において実施、この度予定の活動を終了。集積されたデータは現在、渡辺さんの方で整理、検討、分析が済み統計表やグラフとしてまとめられている段階。今後、資料集として冊子化する予定です。

私は調査活動の事務方を担当しましたので、この活動の概要をお知らせし、観察隊の来年度活動に皆さんの参加をお誘いします。

調査は事前の現地下見、事後の補充調査等を除き、本調査を毎年五月、七月、八月、十月、十二月の第二土曜日に年五回実施。活動時間は午前九時から同十二時半まで、時には午後にも引き続いて。参加人数は各回十人前後で十五回、延べ約百三十人。

調査内容は雑木林と水田に生育する絶滅危惧種を含む植物の種類と発生量を確認しリストアップすること。

調査場所は初年度、牛久市内においては小野川の上流域に当たる東大和田町と猪子町の雑木林及び水田六ヶ所。翌年度は小野川中流域である下根

町の雑木林と観察の森（コジユケイの林）及び岡見、上太田、結束町の水田六ヶ所。最終年度は小野川下流域である島田町の雑木林二カ所と小坂、正直、島田、奥原町の水田四ヶ所。

苦心したのは調査適地探し。雑木林が少なく、有っても管理不十分で不適。湿地についても湿地らしい湿地がなく（水田は耕作放棄されて数年も経つと乾燥し荒地化）水田で行うことに。

一方、グループ活動の良さも発揮。植物に関する知識が浅いメンバーが多かったのですが渡辺さんを始め詳しいメンバーの適切な指導で対応。現場移動の車の運転、写真記録等メンバーそれぞれがやれることを分担。大きな事故もなく計画通り三年間の活動を終え、成果物である資料集の完成が楽しみです。来年度はこの活動を引き継ぐ形でこれまでの調査地を定点観察地として観察・調査を継続する予定。皆様の参加をお待ちしています。



調査・観察地の一つ 下根の雑木林



巨木リサーチ2事業報告

小野 正二

巨木探訪会に参加して

広報うしく「巨木探訪会ツアー」募集の案内記事を見て、「巨木って何だろう？」と興味をもち初めて参加しました。ツアーは六月、十月、十二月と三回行われましたが、巨木・樹木、神社仏閣、石祠など楽しく探訪できましたので、以下に報告します。

第一回は得月院からカッパの碑、牛久町八坂神社そして東猫穴町の八幡神社コースでしたが、初めて巨木の定義を聞き、市にもたくさん巨木と、「市民の木」があることを知りました。特に、得月院のカヤの木は推定樹齢五百年、樹高二十mと見上げるほどに巨木で、小川芋銭の作品に描かれていることを知りました。また、水神塚のスタジイの木は市内第一の巨木で凄まじい幹と枝に驚き、安置された石祠の歴史ガイドに感心しました。

第二回は岡見町の八坂神社、上柏田の日枝神社、柏田町の柏田神社そしてシャトーカミヤのコースでした。前回以上に神社、鳥居、石祠などの説明資料がとても分かりやすく作られていましたし、案内も親切、丁寧でした。

ビックリしたのは日枝神社のご神木のスタジイでした。密集したマダケのため陽が当たらずに、太い枝が枯れ落ちていたため、「今年の五月に樹の周りのマダケを伐採した」と説明がありました。幹、枝の凄まじい光景に心打たれ、暑い日に作業した巨木リサーチの方々の日頃の活動に感心しました。

第三回は前日の大雨で紅葉が落ちてしまい残念でしたが、晴天に恵まれ、コースは奥原町の鹿嶋大神宮、島田町の高福寺、久野町の観音寺、桂町の金剛院でした。また、リピーターも多く、沢山の人の



上柏田日枝神社スタジイの巨木
09.10.4

参加のためバス二台が用意され、晴天の下で素晴らしい会となりました。観音寺のイチョウの巨木は樹高三十八mと市内で一番高く、黄色の絨毯を踏みしめながらの案内はとても楽しかったし、オストメスの受精など生殖法の話は初めて聞きました。また、金剛院のモミの木は樹高二十三mと見上げるほどに大きく、境内へ行く紅葉の風景は素晴らしい風景でした。落葉しなければもっと素晴らしいと思います。

市内にはまだ多くの巨木、稀少木があります。来年も楽しい巨木探訪会の実施をお願いいたします。



あやめ園受託事業報告

坂 弘毅

冬の重要な作業

アヤメ園の作業と言えば、除草が中心となりますが、冬期は雑草が生育していないため、この時期しかできない大事な作業があります。それは、園内施設の改修や池のヘドロ浚渫など、シーズンに向けた管理作業が中心となります。

氷の張った池の中に入り、積もり積もったヘドロの浚渫作業はこの時期しかできません。なぜかと云いますと、それは胴長を着て作業するため、気温が高くなると暑くて作業ができないからです。氷が張るような寒さでも、胴長を着ると池の中に入りたくなくなるから不思議です。

腰までつかる池の中でスイレンの根をスコップで切り、ヘドロの浚渫は、通行人からすると、寒々とした異様な光景かもしれません。でも時には、ありがたい励まし言葉をかけてくれる人もいます。ある日、「皆さん、本当に良くやっていますね、今年が良い花が咲くでしょう。楽しみにしていますよ」と。辛くて大変なときでも、この一言で、疲れも吹き飛ばすほどです。

そして、もう一つの大事な作業とは、園内構造物の改修作業です。今回、老朽化の進んでいたベンチ六脚の改修を行いました。木質部分を新しい木材に交換し、塗料を塗り完成です。その手際よさはプロも舌を巻くほどでした。

アヤメ園にはいろいろな作業がありますが、それぞれ得意とする分野に自然と担当が色分けされ、営繕係、土木係、除草係と言うようにプロ集団化してきています。



アヤメ園スイレン池のヘドロ浚渫作業

坂 09.2.22

アヤメ園の隆盛を期待している多くのファンの声に応えるためにも、今年も見事な花を咲かせたいとがんばっています。季節は雨水を過ぎ、本格的な春の訪れを待つばかりですが、ザリガニやドジョウの元気な姿も見られるようになってきました。



街路樹

チー△街路樹20 受託事業報告

平塚 芳雄

樹名板設置・管理活動を振り返って

「巨木リサーチ事業」の計測班街路樹グループとして街路樹関連の活動が開始されて早二年半が経過。現在、メンバーは責任者の増田さん他二十一名、活動範囲も樹名板設置・巡回管理から街路樹の落ち葉掻き、市広報への連載寄稿（わが街の木）、研修見学会へと拡大。今回はチームのスタートとなった樹名板（プレート）設置・管理活動について報告します。

この活動は身近な樹木である街路樹への市民の親しみ・理解を通じて市内景観の向上、樹木保全を図ることを目的で市に提案し実現したものの。

平成十九年七月、巨木リサーチ事業内に当初メンバー十五名で「街路樹グループ」を組成。同年八月～九月に牛久市所管の街路樹約六千本を路線別に調査。暑い最中、大汗かいての徒歩主体の調査でしたが、二十五種の樹種と五千八百本弱の現存植栽本数を確認、幹周測定も行い、設置すべきプレート数を算出、十月に調査結果を市に提出。

活動二年目、平成二十年八月～九月に五ヶ所の公園、公共施設についても調査、プレートを設置すべき樹木を特定。十二月には市と街路樹樹名板設置業務委託契約を締結。翌年一月十四日、千葉県富津の森林整備協会をメンバー十二名で訪問。工場（樹名板製作工程）と樹木伐採現場を見学、樹名板材料の理解を深めた。同年二月にはプレート取り付け作業を実施。参加者十九名、一班四名の二班編成で実働六日、延べ四十八名。五十路線の街路と五ヶ所の公共施設の樹木に約四百枚のプレートを設置。寒風の中での手作業で手が縮かみ、

プレートの小さな穴にシユロ縄とワイヤーを通す苦勞も経験。

活動三年目の平成二十一年度は樹名板の維持管理（巡回チェックと保全）と追加取り付けを実施。維持管理は当初市内を三つの区域に分け、三班で分担、後、四区域、四班体制に。巡回チェックは五月から隔月で五回実施。取り付け状態の確認、不備なものの補修、破損プレートの回収（これまでに九枚）を行った。十一月には百三十枚のプレートの追加設置も。現在、プレートを設置してから一年近くになるが割れの状況が気になる。三割近くのプレートに割れが入っており、これへの対応が今後の課題です。

来年度は維持管理の他、街区公園の樹木の調査とプレート設置が予定されている。



松戸常盤平 - 緑ゆたかな街路景観 増田 09.12.1



親子農業体験講座

一般参加 小一 新藤雅治

お楽しみ会に参加して

朝六時三〇分頃、外に出たら雪が降ってきて寒かったけど、雪の中でやるイベントは楽しいのでは？と思いつくワクワクして出かけました。ついた時は、誰もいなくて、とても不安でした。

まず最初にすることは、竹やぶに入って、ノコギリを初めて使ったので、竹を切った時は、こわかったですけど、以外に上手に切れました。

次にしたのは、けんちゃん汁を作りました。僕は、こんにゃくをちぎったことしかしなかったけど、なぜか、このこんにゃくは温かった。それに簡単にちぎり取れることを知りました。別の方は、白菜やサツマイモを切り、里芋を入れて、よく沸騰させて、味噌を入れながら味見をして完成です。

次は、たまごを割り、ホットケーキミックスと一緒に、一生懸命こねこねし、かなり手がこなだらけで、よごれてしまい、手を洗ったときは冷たかった。できた粉は「へびみたいにして」と言われたが、実は僕はへび歳。だから一生懸命へびみたいにしました。こねた粉は竹につけて、たき火の所に持っていったが、すごい煙。たき火の前に立った時、あつかったし、においが臭かったし、目に煙が入り大変な思いで、竹を持って頑張ったよ。

サツマイモを新聞紙で包んで水に付けてアルミホイルで包んで、たき火の中に入れました。雪の中でやる農業体験は悪天候で大変でしたが、楽しさが違うことを知りました。



親子での楽しいパン焼き「うまく焼けるかな？」
前田 10.2.13



雅治君のお母さんから一言
この一年、植え付けせず、おいしい時だけ参加しました。この春からは三年生になります、学校で作物の勉強をしているが、正直言って期待できません。年齢のことを考えると、作物の育て方を理解できる年齢。本人は農業体験を楽しくやってきました。種から出来るんだったら、参加したいとの事。自然と触れ、作物を育て何かを感じるには、正式に「親子農業体験講座」入るうかと思っています。



里山セミナーのお知らせ
渡辺 浩美

公開里山セミナー「農と里山」

左記の通り里山セミナーが開催されます。
開催日時：平成二十二年三月十四日(日)

午前十時十五分～午後十二時三十分
会場：牛久市エスカード生涯学習センター
多目的ホール

(牛久駅西口 エスカードビル四階)

定員：一〇〇名(先着順) 参加費：無料

(講師)

埼玉県川越農林振興センター所長 坂 芳則氏

さやま緑と里山の会 元会長 中田 晃氏

* 農業と里山の関わりを通して、伝統的な農業と里山を未来に引き継ぐ試みを、江戸時代から続く埼玉県の三富新田の事例から考えていきます。

当会と茨城大学との連携事業「在来作物栽培プログラム」の活動報告も行われます。

ふるってご参加ください。



運営委員会 理事会からのお知らせ

坂 弘毅

二月二十一日に運営委員会が開催されました。
平成二十二年年度の収益事業開始の件

収益事業開始については今度十分なる議論を重ね、平成二十三年度からスタートすることになりました。一年間時間をかけることにつきましては、監督官庁等への手続き上、年度初めが適切であるとの判断からです。今後、プロジェクトチームを作り、検討して参ります。

二・平成二十二年四月より、各プロジェクト主催行事の件

一般参加者から、保険料見合い分として、お一人百円を徴収することとなりました。詳しくは三月度の運営委員会にて運用方法を決めたいと思います。

三・公開里山セミナーの件(茨城大学と共催)

三月十四日(日)一〇時一五分よりエスカード生涯学習センターにて、里山セミナーが開催されます。

詳細は上記「里山セミナーのお知らせ」を参照ください。

運営委員会に続き理事会が開催されました。

平成二十二年年度の自主事業計画、特別事業計画、受

託事業計画の審議が行われ、全ての計画が承認されましたことをご報告いたします。

南部の自然を守る会

阿部 幸浩

遠山クリーンアップ作戦参加者募集

今年も成井集落のみならずと一緒に遠山地域のゴミ拾いを行います。約一時間のゴミ拾いの後、ホタル生息地の保全活動を行いますので、こちらにもご参加ください。



昨年の作業の様子です

日時：三月七日(日)
八時～十二時三〇分
集合：成井公会堂

(牛久市城中町)八時

その他：事務局で草刈り機と燃料等を用意します。また作業後の昼食も用意しますのでお楽しみに！



結束町みどりの保全区

エコアップ作戦 齊藤 孝

うしく里山の会全体事業

「結束町みどりの保全区エコアップ作戦」

参加者募集のお知らせ

今年度のエコアップ作戦は、茨城県森林湖沼税による補助(平成二十一年度元気な森林づくり活動支援事業)を受けて実施しています。その一環として、三月末までに本会とエコアップ作戦の紹介パンフレットを作成する予定です。

三月の活動日時

三月五日(金) 午前九時～十一時半・
二十一日(日) 午後一時～三時

集合 ネイチャーセンター一階倉庫前

(予約不要/荒天時は中止 ホームページに情報掲載) 持ち物 長靴、軍手(長袖、長ズボンで)

刈払機・チェーンソー使用は資格所有者のみ。

(問い合わせ先) 029-874-6600 担当：石神

この活動は、茨城県森林湖沼税による補助を受けて実施しています。



牛久自然観察の森だより

齊藤 孝

新レンジャー三名が決定しました

去る二月二日、来年度の牛久自然観察の森レンジャーの第二次選考試験を行いました。これは職員員の欠員補充(中島職員、上條職員が三月末で卒業)に伴うもので、十八名の応募の中から第一次書類選考を通過した八名が第二次選考の対象となりました。(ちなみに今回応募のあった十八名全員が県外在住者でした)当日は、埼玉、滋賀、兵庫など県外から受験者六名が集まり(残り二名のうち一名が病欠、一名は辞退)、午前十時から午後四時まで、筆記試験、ワークシヨップ、個人面接に臨みました。

筆記試験では、自然解説員としての在り方や公共施設での接客サービスに関する設問について、ワークシヨップでは三名一グループになって観察の森の夏休み行事の企画会議がテーマとなりました。本選考試験の結果、大作真智子さん(埼玉県上尾市)、木谷昌史さん(兵庫県明石市)、蓮尾亮さん(滋賀県大津市)の三名を新職員として採用する事を決定しました。四月以降、牛久自然観察の森ネイチャーセンターだけでなく、本会のプロジェクトにも研修参加する予定です。皆さんどうぞ宜しくお願いいたします。

今月の古木・希少木 No.35 キツタ(フユツタ)

ウコギ科キツタ属の常緑つる性木。本植物。北海道南部～琉球の低地に自生。朝鮮、台湾、中国にも分布する。茎から多数の気根を出して木の幹や岩の上に這い登り繁茂。セイヨウキツタ(ヘデラ、アイビー)は同属。

名はブドウ科のツタに似るが、より木質であることからキツタと呼ばれ、また落葉性のツタがナツツタと呼ばれるため常緑の本種をフユツタとすることもある。

葉は厚く、濃緑色、葉身は若枝のものはふつと大きく、卵形または菱形卵形で、先は浅く三つ五裂。花を付ける枝では菱形卵形または卵状披針形で、葉縁は全縁である。葉身は長さ三～七cm。葉は互生し、対生のセイヨウキツタと見分けられる。

花期は十一月～十二月、枝先から花軸を出し、その先に黄緑色の小花を放射状に多数付ける。果実は球形、はじめ緑色で、翌年春に黒熟する。径六～七mm。



09.9.2 キツタに登るケヤキの幹を這う

床を這う姿が身近に見られる。造林業では有害雑木であるが、葉の美しさから庭や公園などに植えられたり、道路分離帯の植え込みや壁面緑化などにも利用される。

(平塚芳雄)

2010年3月 NPO法人うしく里山の会 活動カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
	1 (休園日) アヤマ園(受) 7:50アヤマ園P	2 森の畑 13:00畑	3	4 アヤマ園(受) 7:50アヤマ園P	5 エコアップ作戦 9:00NC	6
7 南部の自然を守る会 8:00成井公会堂 巨木リサーチ2(特) 9:00市役所玄関前 雑木林応援隊 9:00ムジナ	8 (休園日) アヤマ園(受) 7:50アヤマ園P	9 (休園日)	10 (休園日)	11 アヤマ園(受) 7:50アヤマ園P	12	13 里山自然観察隊 9:00NC (会報等原稿と切り)
14 公開里山セミナー 10:15エスカート	15 (休園日) アヤマ園(受) 7:50アヤマ園P	16 森の畑 13:00畑 チ-ム' 街路樹20(受) 8:30市役所玄関 (巡回管理)	17	18 アヤマ園(受) 7:50アヤマ園P	19	20 雑木林応援隊 9:00炭小屋 親子農業体験講座 9:00NC
21 (春分の日) 運営委員会9:00NC 理事会11:00NC エコアップ作戦 13:00NC 雑木林応援隊 9:00炭小屋	22 (振替日) アヤマ園(受) 7:50アヤマ園P 雑木林応援隊 9:00炭小屋	23 森の畑 13:00畑	24	25 アヤマ園(受) 7:50アヤマ園P	26	27 巨木リサーチ2(特) 9:00市役所玄関前 チ-ム' 街路樹20(受) 13:00市役所ランティアC (交流会) 会報発送 13:00NC
28	29 (休園日) アヤマ園(受) 7:50アヤマ園P	30 森の畑 13:00畑	31			

活動日は天候等により変更となる場合がありますので、最新情報はホームページ(トップページのお知らせ欄)をご確認ください。

[凡例]

森:牛久自然観察の森
NC:牛久自然観察の森ネイチャーセンター
P:牛久自然観察の森駐車場
炭小屋:牛久自然観察の森駐車場奥の炭小屋
畑:牛久自然観察の森駐車場奥の畑
コジュケイ:牛久自然観察の森内コジュケイの林
観察舎畑:牛久自然観察の森内観察舎前の畑

ムジナ:結束町の雑木林(通称ムジナの里)

市役所:牛久市役所本庁舎
ボランティアC:牛久市ボランティア市民活動センター

アヤマ園:三日月橋観光アヤマ園

(休園日):観察の森休園日

(受):受託事業

(特):特別事業



編集後記

この会報が皆さんに届くころは、早くも三月です。三月のことはを聞くと花の便りを耳にしますが、冬から春への移り変わり目では春を呼びうるような言葉もありません。「啓蟄(けいちつ)」「菜種梅雨(なたねつゆ)」「春一番」・・・。

啓蟄(けいちつ)は二十四節気の一つで三月六日ころになります。啓蟄の啓は開く、蟄は虫などが冬眠するの意味です。暖くなって冬ごもりしていた虫が穴から這い出してくる頃の意味です。

菜種梅雨は三月下旬から四月上旬にかけての連続した降雨をいうようですが、菜の花をはじめ色々な花を催す(咲かせる)という意味で「催花雨(さいかう)」という別名もあります。

春一番は二月から三月の半ば、立春から春分の間、その年に初めて吹く南寄りの強い風をいいます。春一番のことを調べてみたら、春一番・木枯らし一号・台風一号の数字で一番と一号のちがいは?の説明がありました。要約しますと、春一番は漁師(強風で漁船が遭難した)の間での俗称が広がって気象用語になったもの。木枯らし一号は気象庁の職員が使用して定着したもので、十月半ばから十一月末までに、北風が風速8m以上吹くと呼ぶようです。そして春一番・木枯らし一号は季節の区切りを表わしたもので、春一番・木枯らし二号と続くことはありません。しかし、台風は一号・二号と続きその年の発生数になるとあります。

この季節、私にとってはいいことばかりではありません。花粉症の季節もやってきます。(佐藤 輝雄記)

広報委員会からのお知らせ

次号2010年3月号の発送は3月27日(土)午後1時からです。お手伝いいただける方はネイチャーセンターまでお越しください。(尚、発送日・時間につきましては都合により変更する場合がありますので事前に御確認いただければと思います)よろしく願いいたします。